

1. 献血推進に係る中期目標について

『献血推進 2014』の結果について

平成 28 年 1 月 13 日

1. 経緯

少子高齢化社会化が進む中、血液の安定供給を行える体制を確保するため、平成 17 年度から 5 年間実施した「献血構造改革」の結果及び日本赤十字社が実施した血液需給将来推計シミュレーションの結果等を踏まえ、平成 26（2014）年度までの達成目標を設定し、献血推進の一層の強化を行ってきた。[献血推進 2014]

2. 『献血推進 2014』の結果

項目	目標	平成 21 年度 (2009 年度)	平成 22 年度 (2010 年度)	平成 23 年度 (2011 年度)	平成 24 年度 (2012 年度)	平成 25 年度 (2013 年度)	平成 26 年度 (2014 年度)
若年層の献血者数の増加	10代の献血率を6.4%まで増加させる	6.0%	6.1%	5.8%	6.2%	6.3%	5.7%
	20代の献血率を8.4%まで増加させる	7.8%	7.9%	7.5%	7.5%	7.2%	6.7%
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力いただける企業・団体を50,000社まで増加させる	43,193 社	45,343 社	47,137 社	49,232 社	50,712 社	52,084 社
複数回献血の増加	複数回献血者を年間 120 万人まで増加させる	984,766 人	999,325 人	1,001,516 人	1,003,778 人	996,684 人	978,321 人

（注 1）10 代とは献血可能年齢である 16～19 歳を指す。

○ 若年層の献血者数の増加について

10 代の献血率は平成 25 年度までは順調に増加をしていたものの、平成 26 年度は減少となり、平成 21 年度の献血率を下回った（平成 21 年度 6.0%→平成 26 年度 5.7%）。また、20 代は 5 年間を通じて減少し、歯止めが効いていない状況にある（平成 21 年度 7.8%→平成 26 年度 6.7%）。

これらは 200mL 献血由来製品の需要動向を踏まえた 400mL 献血の推進方策等が要因と考えられる。一方、学校献血時における初回献血の経験は、その後の献血への動機付けとなることから、200mL 献血を含め可能な限り献血を経験していただくことが重要である。今後は、事前セミナーにより献血意識の向上を図ったうえで学校献血を実施する等、その後の継続的な献血に繋がるよう効果的な働きかけを行うことが、重要な取組みとなる。

○ 安定的な集団献血の確保について

当初の目標である 50,000 社を平成 25 年度で達成し、平成 26 年度は 52,000 社を超えた。このことは、地方自治体と採血事業者が一体となって推進が行われた結果であり、特に、企業・団体等の代表者に対し、積極的に働きかけを行ってきたことが要因であると考える。

なお、集団献血等における若年層献血者が減少していることから、今後は、血液製剤の安定供給に配慮しつつ、集団献血等における若年層献血者の構成比率を向上させる取り組みが重要となる。

○ 複数回献血の増加について

平成 24 年度までは順調に増加をしていたものの、その後は減少し、平成 26 年度実績は 978,299 人となった。20 代・30 代以下の複数回献血者が減少していることから、今後は、血液製剤の安定供給に配慮しつつ、複数回献血者における若年層献血者の構成比率を向上させる取り組みが重要となる。

3. 今後の取組み

献血推進 2014 の結果を踏まえ、新たな中期目標のもと、若年層献血者確保のための効果的な方策のさらなる検討を行うとともに、引き続き献血推進に取り組むこととする。

2. 献血推進に係る新たな中期目標

～献血推進2020～

平成26年12月2日

1. 背景及び目的

病気やけがの治療等に必要な血液は、国民の善意による献血によって支えられている。献血者は昭和60年度に延べ約876万人を数えたが、その後減少を続けて平成19年度には約496万人まで低下した。

国は、平成17年度から「献血構造改革」、平成22年度から「献血推進2014」といった5ヵ年の献血推進目標を策定して献血者確保のための取り組みを行ってきた。

平成25年度の献血者数は約516万人であるが、20代、30代の献血率の減少が続いている。日本赤十字社の血液需給将来推計シミュレーションでは、平成25年の献血率（献血可能人口の6.0%）のまま、少子高齢化が進んでいった場合、血液需要がピークとなる2027（平成39）年に、献血者約85万人分の血液が不足すると推計された。

こうした状況を踏まえ、将来の血液の安定供給体制を確保するため、新たに平成27年度から平成32（2020）年度までの6年間の中期目標を設定し、献血の推進を図っていくこととする。

2. 平成32（2020）年度までの達成目標

項目	目標	H25年度実績値	H32年度目標値
若年層の献血者数の増加	10代(注1)の献血率を増加させる。	6.3%	7.0%
	20代の献血率を増加させる。	7.2%	8.1%
	30代の献血率を増加させる。	6.7%	7.6%
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力いただける企業・団体を増加させる。	50,712社	60,000社
複数回献血の増加	複数回献血者(年間)を増加させる。	996,684人	1,200,000人
献血の周知度の上昇	献血セミナーの実施回数(年間)を増加させる。	1,128回	1,600回

(注1) 10代とは献血可能年齢である16～19歳を指す。

3. 重点的な取組みについて

上記の目標を達成するため、以下の事項について重点的に取り組んでいくこととする。

(1) 献血の普及啓発

広く国民に献血の意義を理解し、献血を行ってもらうため、効果的な普及啓発を促進する。

(2) 若年層対策の強化

① 10代への働きかけ

献血への理解を深めてもらうことにより、初めての献血を安心して行っていたくため、日本赤十字社が実施する「献血セミナー」などの積極的な活用を推進する。

② 20代・30代への働きかけ

20代・30代は、リピータードナーにならずドロップアウトする方が多いため、献血を体験した方が、長期にわたり複数回献血に協力してもらえるように普及啓発、環境整備に取り組む。

また、企業などへの働きかけを一層強化し集団献血を行うことにより、安定的な献血者の確保を図る。

(3) 安心・安全で心の充足感が得られる環境の整備

献血は相互扶助と博愛精神による自発的な行為であり、献血者一人一人の心の充足感が活動の大きな柱となっている。

献血に協力いただく方々が、より安心・安全に献血できるとともに、心の充足感を得られ継続して献血いただける環境整備を図る。

3. 献血量の年次別推移

年 次	(内 訳)								献血者数
	献血量合計		成分献血		400ml献血		200ml献血		
	L	前年比	L	前年比	L	前年比	L	前年比	
11	2,129,316	101.7	670,136	106.8	1,107,065	102.1	352,115	92.0	6,139,205
12	2,075,864	97.5	676,769	101.0	1,090,418	98.5	308,677	87.7	5,877,971
13	2,087,632	100.6	726,455	107.3	1,090,918	100.0	270,259	87.6	5,774,269
14	2,133,072	102.2	791,782	109.0	1,100,778	100.9	240,512	89.0	5,784,101
15	2,078,437	97.4	747,460	94.4	1,106,558	100.5	224,419	93.3	5,621,096
16	2,018,361	97.1	728,408	97.5	1,074,595	97.1	215,357	96.0	5,473,140
17	1,960,363	97.1	656,295	90.1	1,104,063	102.7	200,005	92.9	5,320,602
18	1,841,903	94.0	566,753	86.4	1,104,410	100.0	170,739	85.4	4,987,857
19	1,887,408	102.5	598,202	105.5	1,172,607	106.2	116,599	68.3	4,939,550
20	1,972,672	104.5	662,498	110.7	1,212,088	103.4	98,085	84.1	5,077,238
21	2,069,369	104.9	711,266	107.4	1,264,706	104.3	93,397	95.2	5,287,101
22	2,068,734	100.0	668,893	94.0	1,308,009	103.4	91,833	98.3	5,318,586
23	2,008,919	97.1	602,397	90.1	1,320,642	101.0	85,880	93.5	5,252,182
24	2,044,244	101.8	631,989	104.9	1,329,222	100.6	83,033	96.7	5,271,103
25	2,021,399	98.9	630,288	99.7	1,308,612	98.4	82,499	99.4	5,205,819
26	1,952,180	96.6	574,537	91.2	1,313,398	100.4	64,245	77.9	4,999,127

(注) 上記の献血量は小数点以下を四捨五入しているため、合計量と内訳の合計とは必ずしも一致しない。

4. 平成26年 都道府県別・献血区分別献血者状況

都道府県	合 計		成 分			400mL			200mL		
	人	前年比	人	構成比	前年比	人	構成比	前年比	人	構成比	前年比
北海道	274,902	96.1%	52,593	19.1%	97.1%	194,016	70.6%	100.6%	28,293	10.3%	72.6%
青森	53,758	96.4%	14,176	26.4%	102.1%	35,132	65.4%	102.8%	4,450	8.3%	57.8%
岩手	49,210	92.6%	12,157	24.7%	90.2%	31,042	63.1%	111.2%	6,011	12.2%	51.0%
宮城	89,853	97.7%	32,875	36.6%	99.0%	52,606	58.5%	103.2%	4,372	4.9%	55.8%
秋田	47,442	91.1%	14,300	30.1%	87.8%	29,502	62.2%	101.2%	3,640	7.7%	54.5%
山形	41,922	86.6%	12,481	29.8%	101.0%	26,726	63.8%	106.6%	2,715	6.5%	24.8%
福島	85,499	92.1%	20,948	24.5%	97.1%	57,654	67.4%	103.5%	6,897	8.1%	44.4%
茨城	102,395	98.5%	26,183	25.6%	93.6%	61,116	59.7%	104.7%	15,096	14.7%	85.9%
栃木	81,589	94.3%	23,593	28.9%	89.0%	44,281	54.3%	100.4%	13,715	16.8%	86.0%
群馬	85,508	96.5%	22,582	26.4%	90.6%	49,511	57.9%	103.6%	13,415	15.7%	84.5%
埼玉	230,309	94.0%	60,903	26.4%	84.1%	131,803	57.2%	98.9%	37,603	16.3%	95.7%
千葉	233,146	94.5%	64,828	27.8%	91.2%	141,284	60.6%	97.7%	27,034	11.6%	87.4%
東京	563,488	96.2%	177,176	31.4%	95.1%	350,528	62.2%	99.1%	35,784	6.4%	78.5%
神奈川	294,390	97.1%	86,276	29.3%	91.1%	194,309	66.0%	100.3%	13,805	4.7%	93.9%
新潟	94,136	95.3%	31,098	33.0%	91.3%	52,871	56.2%	100.8%	10,167	10.8%	83.0%
富山	40,991	98.1%	12,488	30.5%	86.8%	25,286	61.7%	104.4%	3,217	7.8%	102.3%
石川	46,652	93.9%	15,372	33.0%	96.1%	27,291	58.5%	94.7%	3,989	8.6%	82.5%
福井	34,606	95.5%	8,086	23.4%	86.3%	23,999	69.3%	99.3%	2,521	7.3%	92.8%
山梨	32,906	92.7%	9,144	27.8%	87.9%	20,359	61.9%	97.1%	3,403	10.3%	82.7%
長野	76,018	96.5%	24,179	31.8%	93.8%	45,070	59.3%	100.2%	6,769	8.9%	84.2%
岐阜	72,203	95.8%	20,126	27.9%	90.0%	46,755	64.8%	99.9%	5,322	7.4%	86.0%
静岡	131,444	97.7%	38,851	29.6%	96.5%	83,977	63.9%	100.2%	8,616	6.6%	82.3%
愛知	281,839	93.8%	96,210	34.1%	88.6%	172,318	61.1%	100.5%	13,311	4.7%	64.9%
三重	56,310	95.0%	20,803	36.9%	85.7%	35,399	62.9%	101.5%	108	0.2%	79.4%
滋賀	46,218	97.6%	10,600	22.9%	91.9%	32,540	70.4%	99.5%	3,078	6.7%	97.9%
京都	108,305	96.7%	28,541	26.4%	91.1%	78,496	72.5%	99.5%	1,268	1.2%	70.7%
大阪	385,367	98.8%	105,175	27.3%	94.4%	263,610	68.4%	101.1%	16,582	4.3%	92.8%
兵庫	208,854	98.2%	54,664	26.2%	91.7%	143,942	68.9%	101.0%	10,248	4.9%	98.0%
奈良	50,008	94.4%	13,961	27.9%	91.1%	34,242	68.5%	99.2%	1,805	3.6%	58.1%
和歌山	43,763	97.0%	9,369	21.4%	91.4%	31,821	72.7%	98.2%	2,573	5.9%	105.1%
鳥取	22,913	96.1%	5,464	23.8%	84.3%	17,317	75.6%	103.7%	132	0.6%	19.8%
島根	23,944	95.6%	6,661	27.8%	88.2%	17,222	71.9%	100.2%	61	0.3%	19.9%
岡山	87,276	97.3%	21,067	24.1%	81.7%	63,831	73.1%	105.3%	2,378	2.7%	73.3%
広島	120,366	97.1%	41,972	34.9%	96.1%	76,355	63.4%	99.2%	2,039	1.7%	62.0%
山口	53,585	92.6%	9,756	18.2%	87.5%	42,980	80.2%	94.5%	849	1.6%	68.5%
徳島	28,833	89.9%	7,287	25.3%	73.2%	21,463	74.4%	98.5%	83	0.3%	25.9%
香川	37,655	96.3%	9,790	26.0%	94.5%	27,718	73.6%	99.3%	147	0.4%	18.2%
愛媛	51,673	97.6%	11,180	21.6%	91.9%	40,423	78.2%	99.3%	70	0.1%	66.0%
高知	31,448	94.2%	7,473	23.8%	86.9%	22,908	72.8%	96.5%	1,067	3.4%	102.7%
福岡	206,341	97.9%	53,385	25.9%	88.1%	152,933	74.1%	102.0%	23	0.0%	37.7%
佐賀	33,420	94.8%	12,442	37.2%	91.5%	20,782	62.2%	97.5%	196	0.6%	57.0%
長崎	62,368	97.9%	17,315	27.8%	99.1%	43,523	69.8%	98.9%	1,530	2.5%	68.5%
熊本	77,385	95.2%	20,792	26.9%	91.6%	55,792	72.1%	97.5%	801	1.0%	57.2%
大分	48,560	95.2%	10,617	21.9%	89.4%	35,702	73.5%	96.7%	2,241	4.6%	100.9%
宮崎	45,184	92.9%	11,517	25.5%	85.2%	33,019	73.1%	98.4%	648	1.4%	41.1%
鹿児島	67,374	95.8%	12,976	19.3%	82.7%	52,612	78.1%	99.9%	1,786	2.7%	92.2%
沖縄	57,771	101.1%	14,974	25.9%	88.4%	41,430	71.7%	106.0%	1,367	2.4%	116.5%
合 計	4,999,127	96.0%	1,394,406	27.9%	91.6%	3,283,496	65.7%	100.4%	321,225	6.4%	77.9%

5. 平成26年 都道府県別単位人口当たり献血量

都道府県	献血量		献血可能人口		人 口	
	献血量	前年比	10万人当の 献血量	15歳～69歳 人 口	10万人当の 献血量	総人口
	L	%	L	千人	L	千人
北海道	105,759	100.6%	2,877.0	3,676	1,958.5	5,400
青森	20,623	99.0%	2,332.9	884	1,561.2	1,321
岩手	18,290	97.5%	2,174.8	841	1,424.4	1,284
宮城	35,552	99.1%	2,204.1	1,613	1,527.2	2,328
秋田	17,769	93.4%	2,660.0	668	1,713.5	1,037
山形	16,356	94.9%	2,228.4	734	1,446.2	1,131
福島	33,092	96.1%	2,561.3	1,292	1,710.2	1,935
茨城	38,579	99.4%	1,922.2	2,007	1,321.7	2,919
栃木	30,146	95.0%	2,198.8	1,371	1,522.5	1,980
群馬	31,679	97.5%	2,367.6	1,338	1,603.2	1,976
埼玉	86,541	91.3%	1,695.6	5,104	1,195.5	7,239
千葉	88,398	94.7%	2,047.2	4,318	1,426.5	6,197
東京	222,801	96.8%	2,298.6	9,693	1,663.9	13,390
神奈川	117,287	97.2%	1,823.8	6,431	1,289.4	9,096
新潟	36,582	94.0%	2,389.4	1,531	1,581.6	2,313
富山	15,891	97.5%	2,250.9	706	1,485.1	1,070
石川	18,054	94.9%	2,308.7	782	1,561.8	1,156
福井	13,080	95.1%	2,505.7	522	1,655.7	790
山梨	13,511	92.8%	2,391.3	565	1,606.5	841
長野	29,368	96.8%	2,140.5	1,372	1,392.5	2,109
岐阜	28,205	96.0%	2,066.3	1,365	1,381.9	2,041
静岡	51,437	97.4%	2,061.6	2,495	1,388.3	3,705
愛知	107,168	94.1%	2,062.5	5,196	1,437.5	7,455
三重	23,005	94.7%	1,881.0	1,223	1,260.5	1,825
滋賀	18,097	97.6%	1,861.9	972	1,278.1	1,416
京都	43,946	96.6%	2,462.0	1,785	1,683.8	2,610
大阪	153,913	98.7%	2,522.3	6,102	1,741.9	8,836
兵庫	82,914	97.9%	2,202.2	3,765	1,496.4	5,541
奈良	19,906	95.4%	2,145.1	928	1,446.7	1,376
和歌山	17,071	96.9%	2,696.9	633	1,758.1	971
鳥取	8,943	96.7%	2,372.1	377	1,558.0	574
島根	9,333	94.8%	2,116.2	441	1,339.0	697
岡山	34,124	97.0%	2,676.4	1,275	1,773.6	1,924
広島	47,483	95.9%	2,496.5	1,902	1,676.1	2,833
山口	21,046	92.2%	2,307.7	912	1,494.8	1,408
徳島	11,423	90.7%	2,275.5	502	1,495.2	764
香川	14,874	97.1%	2,295.3	648	1,516.2	981
愛媛	20,627	97.9%	2,254.3	915	1,478.6	1,395
高知	12,324	94.9%	2,594.6	475	1,670.0	738
福岡	84,184	97.6%	2,414.9	3,486	1,653.6	5,091
佐賀	13,484	94.7%	2,451.6	550	1,614.8	835
長崎	24,101	102.7%	2,660.2	906	1,738.9	1,386
熊本	30,562	96.4%	2,607.7	1,172	1,703.6	1,794
大分	18,313	96.6%	2,390.7	766	1,563.9	1,171
宮崎	17,523	95.4%	2,417.0	725	1,573.0	1,114
鹿児島	25,873	94.8%	2,397.9	1,079	1,551.1	1,668
沖縄	22,942	101.2%	2,365.2	970	1,614.5	1,421
合 計	1,952,180	96.6%	2,243.5	87,013	1,536.2	127,082

(注1) 人口は、平成26年10月1日現在の『人口推計』(総務省統計)による。

(注2) 献血可能年齢は16歳

6. 平成26年 都道府県別献血区分別構成比の比較

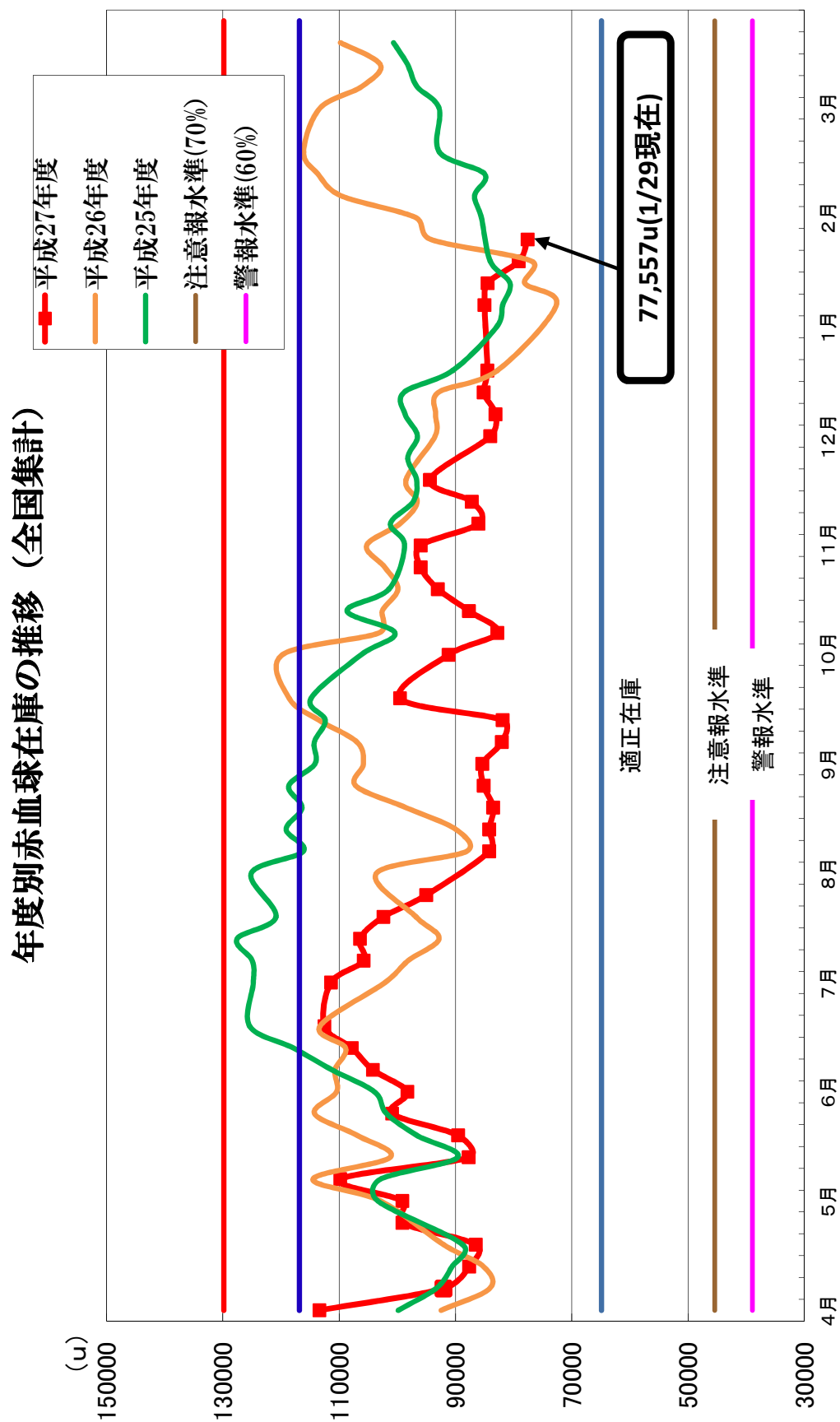
都道府県	成分人	構成比%
佐賀	12,442	37.2%
三重	20,803	36.9%
宮城	32,875	36.6%
広島	41,972	34.9%
愛知	96,210	34.1%
新潟	31,098	33.0%
石川	15,372	33.0%
長野	24,179	31.8%
東京	177,176	31.4%
富山	12,488	30.5%
秋田	14,300	30.1%
山形	12,481	29.8%
静岡	38,851	29.6%
神奈川	86,276	29.3%
栃木	23,593	28.9%
奈良	13,961	27.9%
合計／平均	1,394,406	27.9%
岐阜	20,126	27.9%
島根	6,661	27.8%
千葉	64,828	27.8%
山梨	9,144	27.8%
長崎	17,315	27.8%
大阪	105,175	27.3%
熊本	20,792	26.9%
埼玉	60,903	26.4%
群馬	22,582	26.4%
青森	14,176	26.4%
京都	28,541	26.4%
兵庫	54,664	26.2%
香川	9,790	26.0%
沖縄	14,974	25.9%
福岡	53,385	25.9%
茨城	26,183	25.6%
宮崎	11,517	25.5%
徳島	7,287	25.3%
岩手	12,157	24.7%
福島	20,948	24.5%
岡山	21,067	24.1%
鳥取	5,464	23.8%
高知	7,473	23.8%
福井	8,086	23.4%
滋賀	10,600	22.9%
大分	10,617	21.9%
愛媛	11,180	21.6%
和歌山	9,369	21.4%
鹿児島	12,976	19.3%
北海道	52,593	19.1%
山口	9,756	18.2%

都道府県	400mL人	構成比%
山口	42,980	80.2%
愛媛	40,423	78.2%
鹿児島	52,612	78.1%
鳥取	17,317	75.6%
徳島	21,463	74.4%
福岡	152,933	74.1%
香川	27,718	73.6%
大分	35,702	73.5%
岡山	63,831	73.1%
宮崎	33,019	73.1%
高知	22,908	72.8%
和歌山	31,821	72.7%
京都	78,496	72.5%
熊本	55,792	72.1%
島根	17,222	71.9%
沖縄	41,430	71.7%
北海道	194,016	70.6%
滋賀	32,540	70.4%
長崎	43,523	69.8%
福井	23,999	69.3%
兵庫	143,942	68.9%
奈良	34,242	68.5%
大阪	263,610	68.4%
福島	57,654	67.4%
神奈川	194,309	66.0%
合計／平均	3,283,496	65.7%
青森	35,132	65.4%
岐阜	46,755	64.8%
静岡	83,977	63.9%
山形	26,726	63.8%
広島	76,355	63.4%
岩手	31,042	63.1%
三重	35,399	62.9%
東京	350,528	62.2%
秋田	29,502	62.2%
佐賀	20,782	62.2%
山梨	20,359	61.9%
富山	25,286	61.7%
愛知	172,318	61.1%
千葉	141,284	60.6%
茨城	61,116	59.7%
長野	45,070	59.3%
宮城	52,606	58.5%
石川	27,291	58.5%
群馬	49,511	57.9%
埼玉	131,803	57.2%
新潟	52,871	56.2%
栃木	44,281	54.3%

都道府県	200mL人	構成比%
栃木	13,715	16.8%
埼玉	37,603	16.3%
群馬	13,415	15.7%
茨城	15,096	14.7%
岩手	6,011	12.2%
千葉	27,034	11.6%
新潟	10,167	10.8%
山梨	3,403	10.3%
北海道	28,293	10.3%
長野	6,769	8.9%
石川	3,989	8.6%
青森	4,450	8.3%
福島	6,897	8.1%
富山	3,217	7.8%
秋田	3,640	7.7%
岐阜	5,322	7.4%
福井	2,521	7.3%
滋賀	3,078	6.7%
静岡	8,616	6.6%
山形	2,715	6.5%
合計／平均	321,225	6.4%
東京	35,784	6.4%
和歌山	2,573	5.9%
兵庫	10,248	4.9%
宮城	4,372	4.9%
愛知	13,311	4.7%
神奈川	13,805	4.7%
大分	2,241	4.6%
大阪	16,582	4.3%
奈良	1,805	3.6%
高知	1,067	3.4%
岡山	2,378	2.7%
鹿児島	1,786	2.7%
長崎	1,530	2.5%
沖縄	1,367	2.4%
広島	2,039	1.7%
山口	849	1.6%
宮崎	648	1.4%
京都	1,268	1.2%
熊本	801	1.0%
佐賀	196	0.6%
鳥取	132	0.6%
香川	147	0.4%
徳島	83	0.3%
島根	61	0.3%
三重	108	0.2%
愛媛	70	0.1%
福岡	23	0.0%

(注) 合計／平均欄の構成比は全国平均。

7. 年度別赤血球在庫の推移



8. 主な血液製剤の製造量

①輸血用血液製剤

年 別	平19年	平20年	平21年	平22年	平23年	平24年	平25年	平26年
赤血球製剤	47.6	48.6	50.6	52.4	52.9	53.3	52.6	52.0
血漿製剤	26.8	25.2	28.1	28.2	27.5	28.5	30.8	27.3
血小板製剤	15.3	15.4	15.9	16.5	16.7	17.2	17.3	17.3

(注)単位は万L

②アルブミン製剤

年 別	平19年	平20年	平21年	平22年	平23年	平24年	平25年	平26年
アルブミン量(kg)	40,754	32,184	38,389	38,004	34,346	34,551	35,104	30,730
血漿換算量(万L)	160.6	126.8	151.3	149.8	139.4	141.1	142.8	126.2

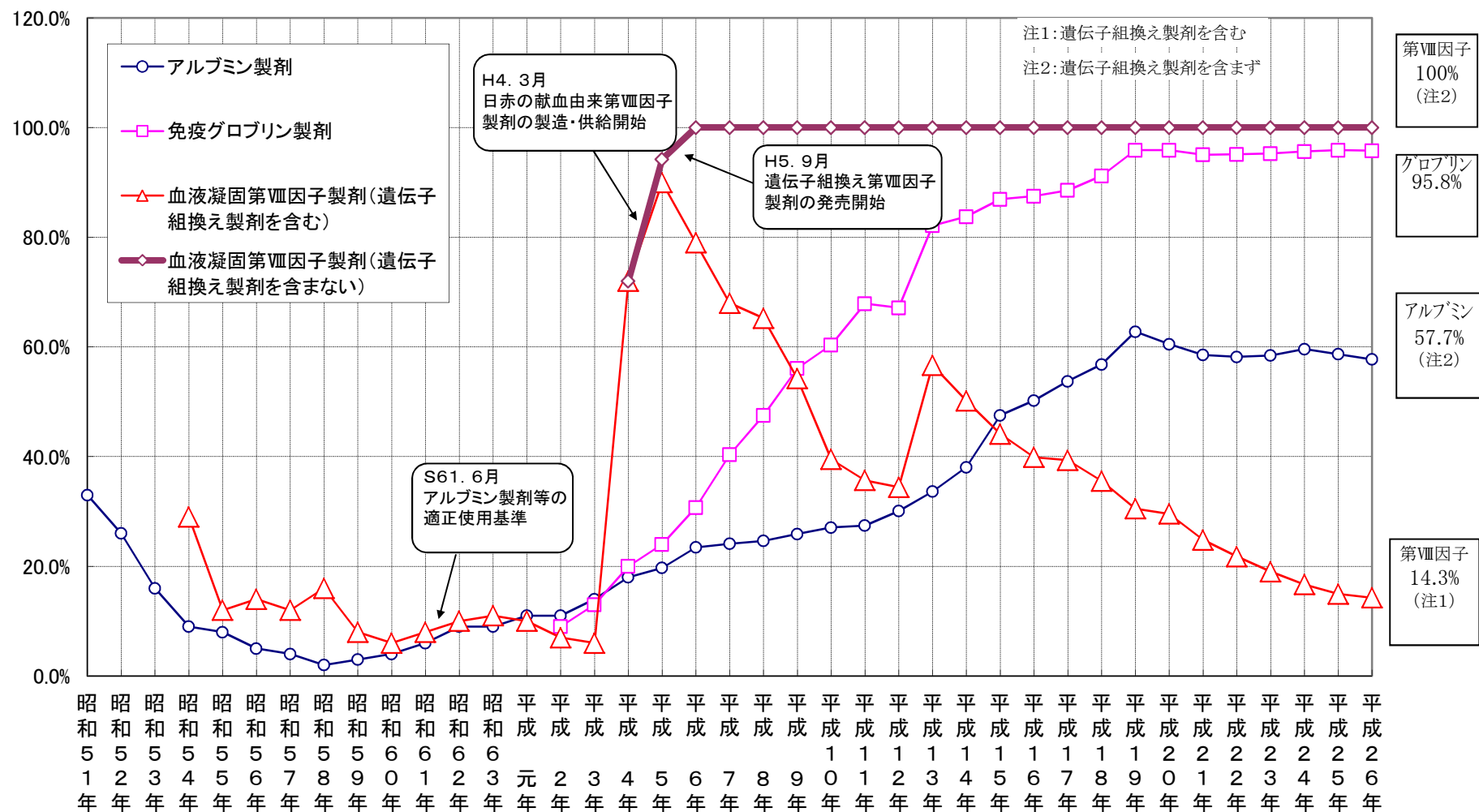
③免疫グロブリン製剤

年 別	平19年	平20年	平21年	平22年	平23年	平24年	平25年	平26年
グロブリン量(kg)	3,468	3,673	3,245	3,649	4,438	4,044	4,380	4,318
血漿換算量(万L)	96.0	101.7	89.9	101.0	98.2	89.4	95.9	94.8

(注)静注用人免疫グロブリン、人免疫グロブリンについて集計

自給率

9. 血漿分画製剤の自給率の推移（供給量ベース）



注) 平成9年以前は年次、平成10年以降は年度

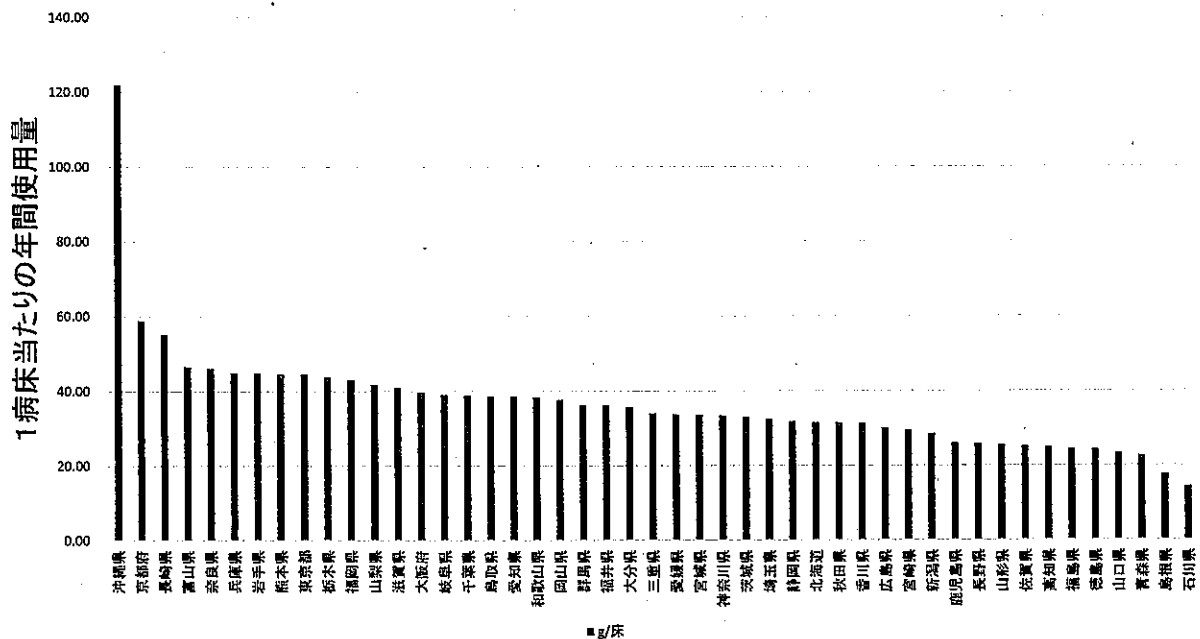
10. 都道府県別原料血漿確保量

都道府県	平成28年度目標量 (予定)	平成27年度目標量	平成26年度目標量	平成26年度実績
	L	L	L	L
北海道	40,667	39,045	39,517	42,693
青森県	10,061	9,641	9,746	宮城県に合算
岩手県	9,605	9,201	9,297	
宮城県	17,545	16,786	16,956	68,554
秋田県	7,772	7,450	7,537	宮城県に合算
山形県	8,421	8,063	8,152	
福島県	14,824	14,175	14,310	
茨城県	21,816	20,900	21,127	埼玉県に合算
栃木県	14,896	14,269	14,421	
群馬県	14,801	14,184	14,338	
埼玉県	51,395	49,260	49,823	131,065
千葉県	44,006	42,192	42,694	東京都に合算
東京都	108,917	104,371	105,560	154,789
神奈川県	65,585	62,817	63,506	59,534
新潟県	17,290	16,558	16,737	埼玉県に合算
富山県	6,311	6,040	7,693	石川県に合算
石川県	15,551	14,888	8,341	23,034
福井県	7,939	7,606	5,669	石川県に合算
山梨県	8,623	8,255	6,103	東京都に合算
長野県	5,872	5,614	15,054	埼玉県に合算
岐阜県	14,986	14,345	14,502	愛知県に合算
静岡県	27,700	26,530	26,830	
愛知県	56,087	53,686	54,248	105,953
三重県	13,486	12,911	13,049	愛知県に合算
滋賀県	10,364	9,913	10,004	大阪府に合算
京都府	19,568	18,753	18,959	
大阪府	67,528	64,692	65,423	110,936
兵庫県	40,512	38,798	39,225	39,260
奈良県	9,818	9,405	9,511	大阪府に合算
和歌山県	7,155	6,852	6,930	
鳥取県	4,258	4,076	4,121	広島県に合算
島根県	5,103	4,887	4,942	
岡山県	14,148	13,556	13,709	
広島県	21,001	20,128	20,363	65,033
山口県	10,386	9,963	10,084	広島県に合算
徳島県	5,677	5,436	5,497	香川県に合算
香川県	7,202	6,900	6,976	15,970
愛媛県	10,367	9,937	10,053	香川県に合算
高知県	5,456	5,232	5,297	
福岡県	37,767	36,170	36,553	96,993
佐賀県	6,221	5,950	6,006	福岡県に合算
長崎県	10,350	9,909	10,009	
熊本県	13,170	12,608	12,734	
大分県	8,654	8,292	8,388	
宮崎県	8,242	7,889	7,970	
鹿児島県	12,326	11,798	11,916	
沖縄県	10,570	10,068	10,122	9,691
合 計	950,000	910,000	920,000	923,507

1 1. 都道府県別アルブミン製剤・新鮮凍結血漿使用量（1床当たりの年間使用量）

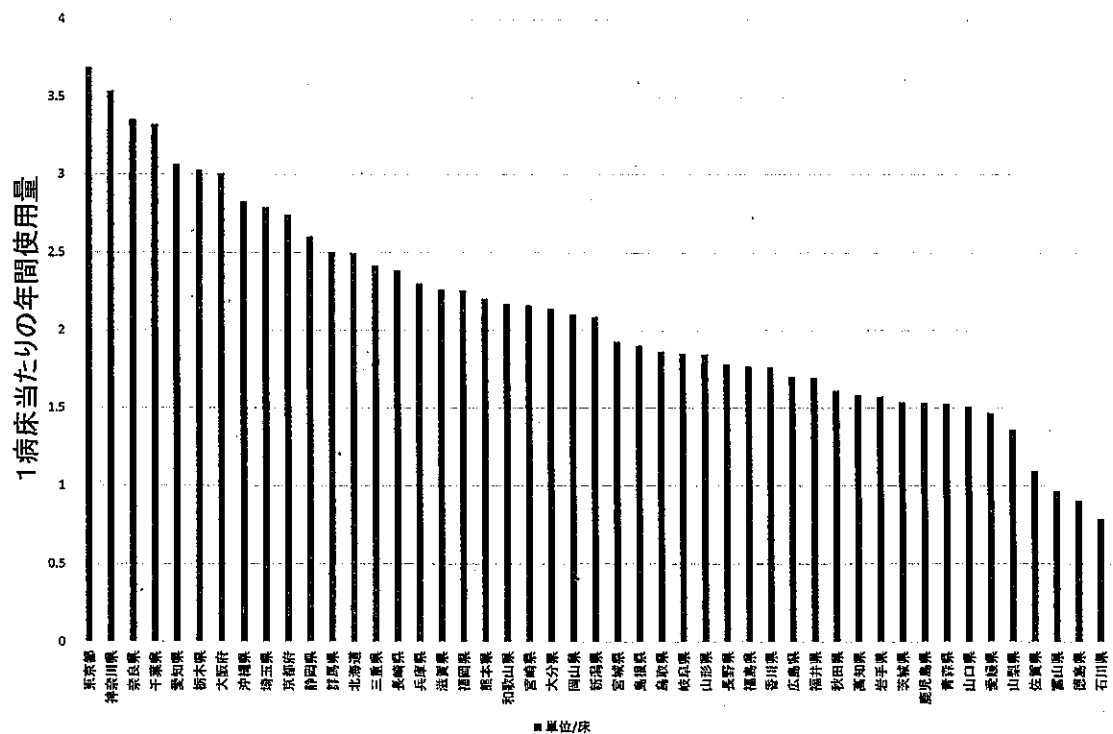
平成 26 年度血液製剤使用実態調査（血液製剤使用実態）日本輸血・細胞治療学会 調査統計委員会

都道府県別年間総アルブミン製剤使用量(2014年)

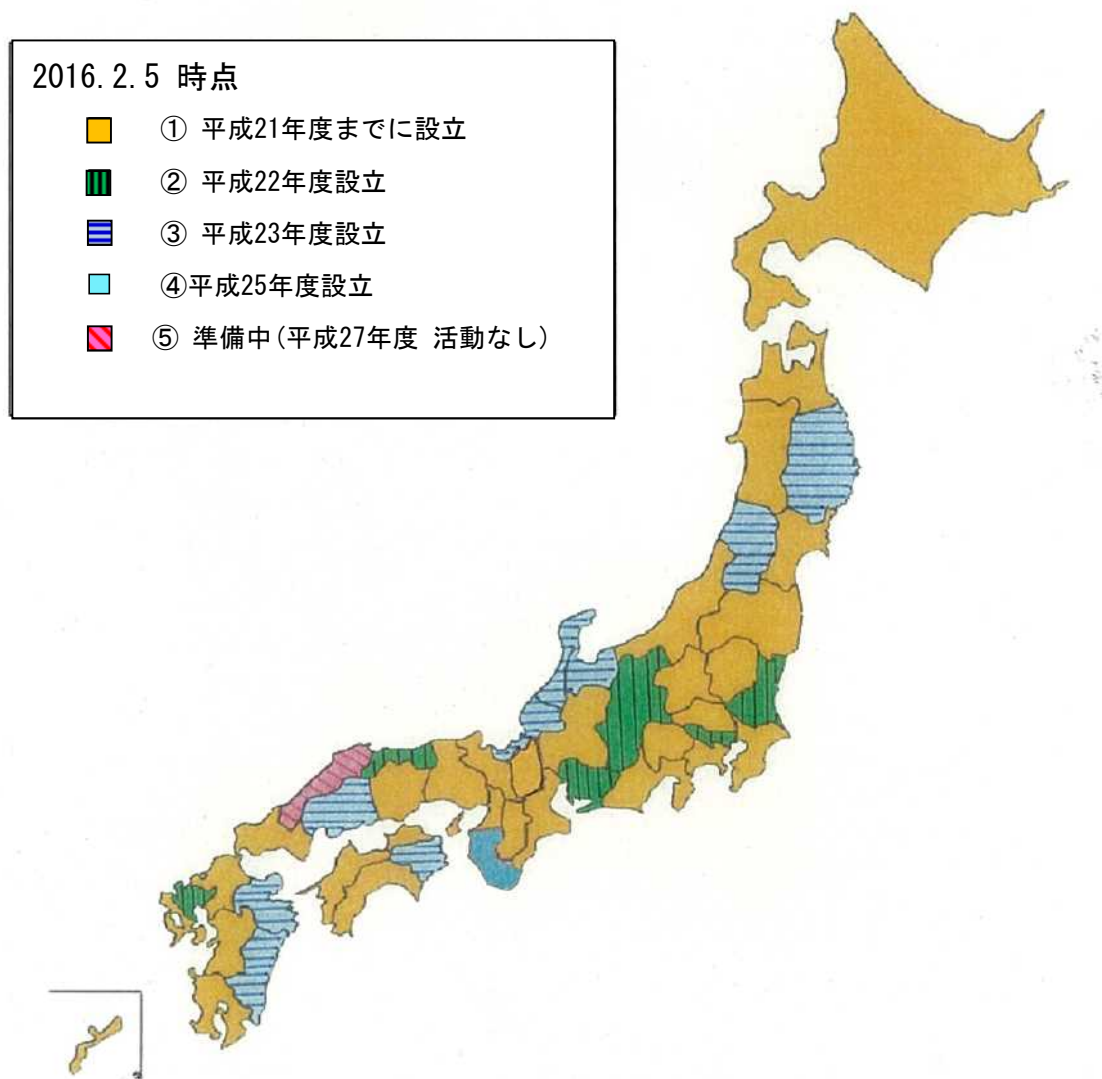


平成 26 年度血液製剤使用実態調査（血液製剤使用実態）日本輸血・細胞治療学会 調査統計委員会

都道府県別年間血漿製剤使用量(2014年)



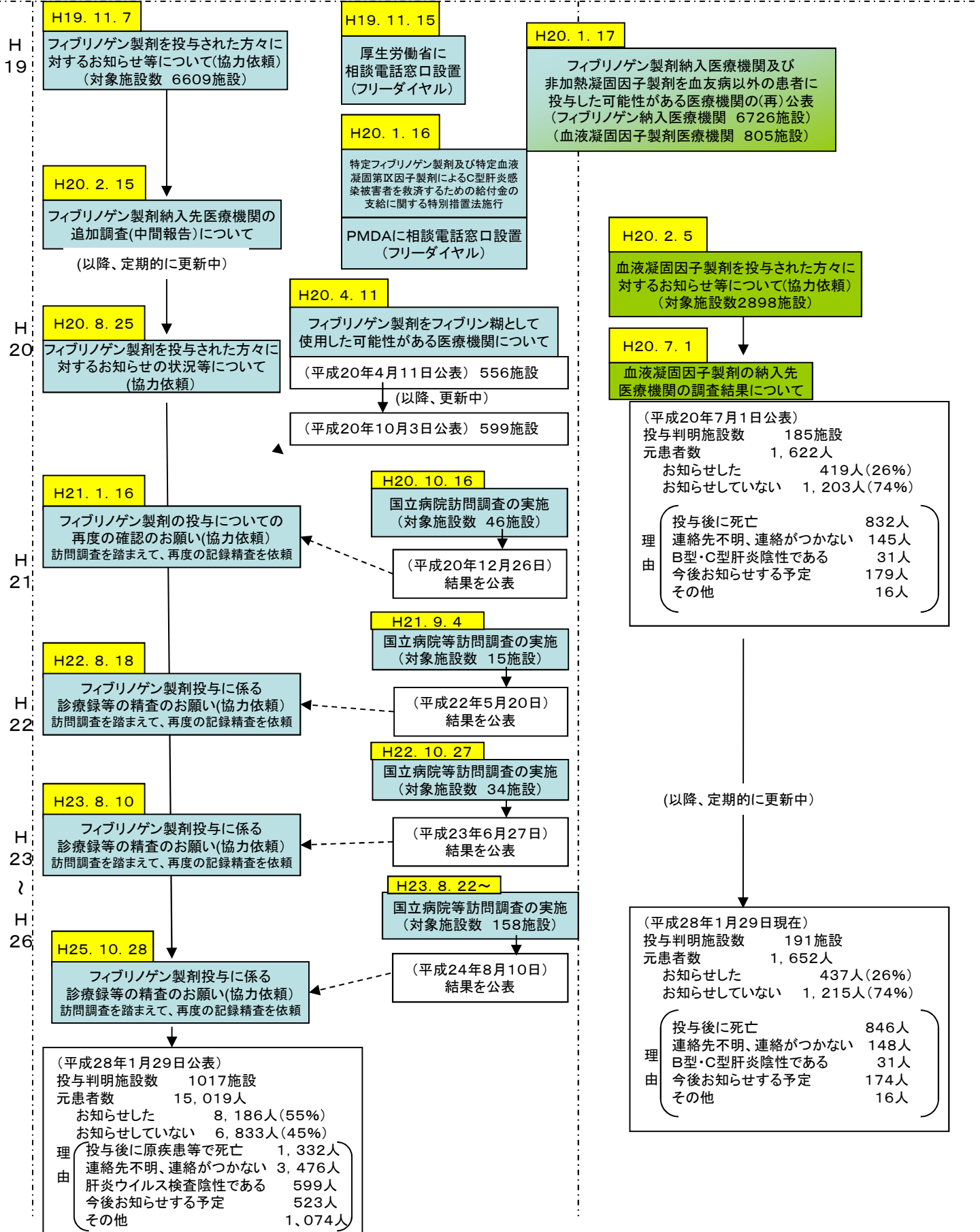
12. 各自治体の合同輸血療法委員会等 設置状況



13. 肝炎ウイルス検査の受診勧奨、特別措置法の周知について

<フィブリノゲン製剤>

<血液凝固因子製剤>



14. フィブリノゲン製剤納入医療機関調査結果公表



Press Release

平成 28 年 1 月 29 日

【照会先】

医薬・生活衛生局血液対策課

課長補佐：清水（内線 2909）

課長補佐：近藤（内線 2905）

（電話代表）：03（5253）1111

報道関係者各位

平成 25 年度に実施したフィブリノゲン製剤納入医療機関 書面調査の結果（追加報告分を含む。）を公表します

1. 調査の目的

フィブリノゲン製剤を投与された方やその御遺族の方に医療機関を通じて投与事実をお知らせすることにより、肝炎の早期発見・早期治療及び「特定フィブリノゲン製剤及び特定血液凝固第 9 因子製剤による C 型肝炎感染被害者を救済するための給付金の支給に関する特別措置法」に基づく給付金の支給に繋げていく必要があります。

厚生労働省では、フィブリノゲン製剤の納入実績のある医療機関に対して、平成 6 年以前の診療録等による製剤投与事実の確認及び製剤投与が判明した方への受検勧奨について、書面により協力依頼するとともに、その状況調査を行い、調査結果を厚生労働省ホームページに公表してまいりました。

「平成 25 年度に実施したフィブリノゲン製剤納入医療機関書面調査の結果」については、既に、平成 26 年 12 月 16 日付けで公表していたところですが、この度、平成 28 年 1 月 6 日までに回収・精査した医療機関からの回答を含めて取りまとめを行いましたので結果をお知らせいたします。

2. 調査の対象施設

フィブリノゲン製剤納入医療機関のうち、所在地不明等を除いた 5,677 の医療機関を対象に実施しました（回答は現在も受付中）。

3. 調査結果の集計状況（平成 28 年 1 月 6 日時点）

回答があった 4143 施設をとりまとめた結果は以下の通りです。

- (1) 「フィブリノゲン製剤を投与されたことが判明した方」がいると回答のあった医療機関数と元患者数

○ 医療機関数 1017 施設

○ 元患者数 15019 人

(2) フィブリノゲン製剤投与時期について回答があった医療機関数と元患者数

- 医療機関数 881 施設
- 元患者数 14080 人

(3) 元患者への投与の事実のお知らせ状況

- お知らせした 8186 人
- お知らせしていない 6833 人
 - 投与後に原疾患等により死亡（人数） 1332 人
 - 連絡先が不明又は連絡がつかない（人数） 3476 人
 - ・ うち住民票調査を実施した（人数） 599 人
 - 肝炎ウイルス検査の結果が陰性（人数） 523 人
 - 今後お知らせする予定である（人数） 428 人
 - その他（未記入含む）（人数） 1074 人

(4) 元患者の方に一人でも投与の事実をお知らせした医療機関の数 724 施設

(5) 診療録等の保管状況

平成6年以前の診療録等が次のいずれかにより保管されている施設数 1269 施設
(内訳)

- 診療録（カルテ） 763 施設
- 手術記録あるいは分娩記録 807 施設
- 製剤使用簿 88 施設
- 処方箋 105 施設
- 輸液箋あるいは注射指示箋 159 施設
- レセプトの写し 62 施設
- その他（入院サマリーあるいは退院サマリー等） 447 施設

(6) 納入実績について回答があった施設数

- 納入時期について回答があった施設 2448 施設
- 納入本数について回答があった施設 2295 施設

(7) 投与時期について回答があった元患者数の投与年別(昭和39年から平成6年まで)
の内訳人数

昭和39年	0
昭和40年	5
昭和41年	10
昭和42年	6
昭和43年	11
昭和44年	20
昭和45年	15
昭和46年	25
昭和47年	36
昭和48年	57
昭和49年	66

昭和50年	64
昭和51年	75
昭和52年	100
昭和53年	118
昭和54年	258
昭和55年	358
昭和56年	396
昭和57年	532
昭和58年	970
昭和59年	1471
昭和60年	1865
昭和61年	2558
昭和62年	2735
昭和63年	1634
平成元年	236
平成2年	185
平成3年	109
平成4年	59
平成5年	51
平成6年	55

4. フィブリノゲン製剤を投与された可能性のある方へ

(1) 「肝炎検査」の受検勧奨について

平成6年以前に使用された可能性のある方に対しては、C型肝炎ウイルス検査受検の呼びかけを行っております。検査は保健所又は自治体が委託する医療機関において、概ね無料で受検できます。受検に関して詳しくは、以下厚生労働省肝炎総合対策推進国民運動事業（「知って、肝炎」プロジェクト）、及び肝炎ウイルス検査に関する検査情報サイト（肝炎ウイルス検査マップ）をご参照ください。

<http://www.kanen.org/qanda/>

<http://www.kanen.ncgm.go.jp/kan-en/>

また、医療機関ごとのカルテ等の保管状況や精査状況等の情報は、以下厚生労働省サイト内の＜公表医療機関等一覧＞の情報を更新する形で公表しております。

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2008/01/h0117-2/>

(2) 「特定フィブリノゲン製剤及び特定血液凝固第9因子製剤によるC型肝炎感染被害者を救済するための給付金の支給に関する特別措置法」について

特定のフィブリノゲン製剤を投与されたことによって、C型肝炎ウイルスに感染された方々に対しては、法律に基づき給付金を支給する制度があります。詳細は、以下厚生労働省サイトをご参照ください。

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iyakuhin/fiwwakai/index.html

(3) 厚生労働省フィブリノゲン製剤等に関する相談窓口

上記(1)、(2)に関し、ご不明な点等がございましたら、下記までお問い合わせください。

＜問い合わせ先＞

◎厚生労働省フィブリノゲン製剤等に関する相談窓口

フリーダイヤル 0120-509-002

受付時間：9：30～18：00（土・日・祝日・年末年始を除く）

(参考)

平成19年度に実施した調査の集計結果は、以下厚生労働省サイトをご参照ください。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000018750.html>